備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度		S46～	根拠法令・例規等	備前市地域振興活性化事業補助金交付要綱	
総合計画 大項目	基本目標	04 もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問合先 担当課（室）	商工観光課	
総合計画 中項目	基本施策	03 個性あふれる観光のまちづくり	問合先 職・氏名	観光係長　金藤 康樹	
総合計画 小項目	施策	01 観光	問合先 電話	64－1832（274）	
事務事業名		08 かき海道浸透事業	このシート作成に要した時間	3.0 時間	

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	観光客、市民
目的（何のために）	かきをメインにした観光・地域活性化事業を実施、支援することで市民融和及び観光客の動員を図る
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	イベント集客数の増加

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
ひなせかき祭補助事業	ひなせかき祭実行委員会への祭の補助。５６０，０００円	◎
かき海道浸透事業	近隣市町との連携による「かき」のPR等。	○

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円	560	560	560
事業費	必要人員 人件費	千円	0.43人 3,305	0.29人 2,217	0.33人 2,595
事業費	事業費計	千円	3,865	2,777	3,155
決算額 財源	国県支出金	千円			
決算額 財源	受益者負担	千円			
決算額 財源	繰入金	千円			
決算額 財源	市債	千円			
決算額 財源	その他（　）	千円			
決算額 財源	一般財源	千円	3,865	2,777	3,155
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
結果指標	イベント（かき祭り）	説明	かき祭り来場者数		
結果指標	結果指標量	人	40,000	40,000	50,000
結果指標	対前年比	%		100.0%	125.0%
結果指標	活動コスト	円	3,865,000	2,777,000	3,155,000
結果指標	単位当たりコスト	円	97	69	63

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
イベント集客数	目標値（A）	42,000	42,000	42,000	42,000
	実績値（B）	40,000	40,000	50,000	到達目標値
	達成率（B/A）	95.24%	95.24%	119.05%	毎年度

成果指標設定の考え方・式や説明

イベント（かき祭り）の来場者数により、ＰＲ効果を推測する。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高いや高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高いや高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高いや高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

説明：「日生カキオコ」Ｂ-1出展効果もあり観光客が増加している。かき祭りやその他イベントを通じて、備前ブランドとして定着できるようＰＲすることで誘客促進を図る。

総合評価

「日生カキオコ」人気を利用して、有効なＰＲを考えながら知名度アップを図っていく。

総合評価（A 高いや高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標：産地びぜんブランドの推進を図る。自主活動している団体に支援（経費のかからないＰＲ・広報）などを検討する。特産品の「カキ」、「カキオコ」のＢ級グルメを利用して全国展開しやすい後方支援をする。